

# あさおの町会・自治会 vol.30

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



## 小田急さつき台自治会

会長 土屋 隆俊

当自治会が発足した昭和62年4月13日当時の五月台駅は無人駅で、交番、郵便局は無く、商店も少ないとても寂しい街でした。それは今もあまり変わっておらず、少々自虐的ではありますが「忘れられた街」としてのイメージが強く感じられます。当初は約100世帯程の規模で発足し、現在は327世帯にまで増えました。五月台駅を中心に片平1・2・3丁目、五力田1・2・5丁目が主な地区となります。このような街ではありますが、人も自動車も少なめで、静かで、のんびりとした、散歩しやすい緑多い街、そして特筆すべきは、「五月台・柿生・新百合ヶ丘の3駅に歩いて行ける」という良い環境でもあります。当自治会では会長・役員は任期が1年の輪番制でようやく慣れた頃には、交代時期

を迎える事となり、長期的な展望が描きにくいという特徴があります。そこで先人達の賢明な選択で、自治会の活動は「無理せず、焦らず、適度な範囲で」とのポリシーで無事に歴史を重ねて来られたと考えます。さらには組織力も弱い為、長期に継続的な行事、例えば、お祭り・盆踊り大会等の開催は苦手です。各期の役員達は身分相応の活動に腐心しつつ出来る範囲で何が必要かを模索して来られたと思います。今期は「人に優しい街づくり」をモットーに、以下の事に取り組んでいます。

- 1、片平1丁目の階段の踊り場に途中で休憩できるように、ベンチを1台設置しました。
- 2、片平小学校の児童の登下校の見守りを強化するため、その時間帯

に合わせて家の前を掃いたり、犬の散歩をしたり、散歩しながらタバコの吸い殻拾い等をして協力する。

3、貴重な大規模緑地である、葉積緑地を適正に保全・管理すべく、道路公園センター及び緑地保全活動ボランティアの方々のご指導・協力を得て、美化活動に役立て、憩いの場として維持する。

4、五月台駅の駅員不在時間帯の解消を申し入れる。(7月から昼間の駅員不在が解決)

5、セミナーの開催…現時点までに、麻生警察署様、地域包括支援センター金井原苑様、一般社団法人地域社会支援ネットワーク神奈川(CSN)様、新百合ヶ丘自治会自主防災組織様等に講演していただきました。

6、交番・郵便局・信号機等の設置、

コミュニティバスの運行、事故多発箇所への警察官による監視強化、商店・飲食店の誘致等をそれぞれの対象となる組織に要望しました。

ということで、他の町会・自治会様には別次元といえるような内容が多く、お恥ずかしい限りではありますが、これが当自治会の現在の活動内容です。



片平1丁目の階段踊り場に設置されたベンチ

## 日光台自治会

会長 神谷 卓司

柿生駅南口から左(北)に小田急線に沿って進み、茶臼山日光台へ細い道を上り、左手に茶臼山の雑木林が見えたら、その右手が日光台です。近隣の方にも、馬頭観音も残っていて、散歩やハイキングの道として、親し



日光台自治会 東に向かって撮影

まれています。茶臼山とは、徳川家康が鷹狩りに来て大阪城攻略の冬の陣(1614年)と夏の陣(1615年)を懐かしみ、本陣を置いた茶臼山にちなんでつけたとのこと。

そこに、私たちは1960年頃に元の山林地主が分譲土地販売を計画したことに端を発し、道路の整備等の開発が不完全なまま土地販売と居住が開始され、住民によって開発が進められた歴史を持っています。そして約50年の間に住民が少しずつ増加してきました。そして現在、会員90戸(加入率80%弱)の小さな自治会になっています。高齢化が進んでいますが、最近若い世代の転入もあり、

一時ゼロだった小学生の遊ぶ声も聞こえるようになりました。

今もなお、私道の公道移管(道路の拡幅及び舗装)、公共下水道の敷設、等の大きな問題が残っています。自治会の敷地全体が急傾斜地崩壊危険区域に指定されていて、最近私道の崩壊が3か所でありました。また、高齢者の車椅子での外出では、狭く舗装されていない坂道をヘルパーさんが介助できません。消防自動車やごみ収集車が侵入できません。多くの家に下水が設置されていないため、各戸が浄化槽を持っていたり、都市ガスも来ていません。

主な自治会活動としては、班長会

(7班)を毎月、側溝に下水が流れ詰まるため年2回の清掃活動を行っています。そして、各班長には、会計・環境・防災・防犯・書記などを担当していただいています。

私たちは自治会を運営して参りましたが、これまで以上に古くからの者も、新しい者も、お互いに親しみ、思いやり、信頼し、楽しい雰囲気の中に各世代の住民が愛情を持って住み続けられる郷土としての日光台地区を作り上げるために、民主的な手続きと、公正な方法を尊重して自治会活動を進めたいと思っています。

## 町会の防災訓練紹介

### 三井百合ヶ丘第三地区自主防災

防災本部長 羽田 聡子

今年の防災訓練日は6月3日(土)でしたが、幸い天気恵まれ、参加者は今年も100人を越し、計画通りに実行できました。当自治会に自主防災組織が発足したのは、4月の自治会総会の席上でしたが、それまでは自主的な防災活動が4年間ありました。防災委員は有志なので人数は不定ですが現在は9人です。行事は自治会の全役員と、一般会員の協力も得て実施しています。私達は訓練の目的や内容を明確にし、多数の参加者を得るために丁寧なPRを実施します。この訓練時に毎年全参加者にアンケートを配布し、訓練への要望や感想、心配事や不安の有無も記入いただき、それらの解決に協力する努力をしています。



消防署員による講話の様子

### 麻生台団地自主防災会

本部長 奥山 潔

今年1月末に購入した消火ホースキットを使っでの待ちに待った防災訓練、3人組での「放水はじめ」の合図・復唱を皮切りに法面の草木に向けての放水訓練を経験しました。当初1班30名編成での3班、計90名に放水訓練を計画しましたが1班の持ち時間が20分と短かった為一部の参加者には未訓練となってしまい、大きな反省点となってしまいました。また、初めての応急給水の10Lポリ容器への給水・持ち運び訓練では、高齢者にとって10Lの水の運搬は大変な苦痛で今後の宿題となりました。その他、恒例の水消火器、煙体験、ガス器具の取り扱い方、炊き出し等も消防署員や関係団体の方々、当自治会員等のご協力有意義な防災訓練となり、参加して下さった団地住民にとっては楽しい半日でした。



放水訓練の様子



消防署員が見守る中の訓練

### 栗木町内会の防災への取組み

会長 仲林 久夫

栗木町内会では、都市の課題である安全と安心の町づくりに関しては独自の取り組みを行っています。自前の消防車を持つ栗木自衛消防隊の設置をはじめ、災害時に住民の水を確保するため、栗木御嶽神社に井戸を掘り浄水器を設置。あるいは、「栗木防災マップ」を全戸に配布し町内会独自に指定した緊急避難所などの周知徹底に努めています。その一環として、平成15年から地域住民とマイコン企業並びに桐光学園との合同防災訓練を、栗木おおしぼら公園で実施しています。今年度は7月13日に避難訓練、消火訓練、起震車、煙体験、炊き出し訓練といった内容で行い、各訓練は麻生消防署の指導と消防団栗木班、自衛消防隊が協力し、約320人が参加しました。



起震車による訓練